

## 岩沼市環境基本計画（案）のパブリックコメントに係る 意見募集の結果と考え方について

意見公募期間 平成28年1月12日（火）～平成28年2月12日（金）

意見の件数（意見の提出者） 3件（2人）

### ○意見・提案の内容及び市の考え方

1. リーディング・プロジェクト2「もったいない！ごみ減量化」（4－4頁）に関して  
プロジェクト内容として「集団リサイクルの取り組みの実施」、「新たな地域リサイクルモデルの検討」とあり、その成果や波及効果として「地域活性化への展開」とあるが、それに加えて「地域コミュニティの形成に寄与する」ということも明記してはどうか。

#### 【市の考え方】

計画においては、市民・事業者・行政の各主体の自主的行動と協働によって、環境像の実現に向けた取組みを推進することとしています。「地域コミュニティの形成」を目的とはしていませんが、町内会や自治会などを含め、さまざまな団体が身近な環境課題に取り組むことは重要なことと捉えていますので、地域コミュニティにおける環境保全活動の活性化などに配慮して事業展開ができるよう進めたいと考えます。

2. 豊かな自然環境の保全 生物多様性（5－6頁）に関して

動植物・生態系への実態を把握出来ていない場合、適切な保護・保全・対策を行うことは難しい。また大きな問題となってから調査を始めたのでは既に手遅れである。そのため取組の大前提として自然環境の確認調査を優先事項とすべきではないか。

#### 【市の考え方】

多様な生態系が維持されるためには、野生生物の生息、生育環境が良好な状態で維持されるとともに、連続性を確保する必要があります。自然環境に関する情報の提供と保護意識の啓発に努め、生息、生育環境の保全を進めることとしています。自然環境の確認調査につきましては、市民協働で行う調査や宮城県、市民団体等と連携した調査の可能性など、調査実施の検討を行います。

### 3. リーディング・プロジェクト3「地域から地球を守ろう」(4-6頁)に関して

プロジェクトの背景とねらいの考え方として「エネルギーシフト」の考え方を取り入れてみては良いのではないか。「エネルギーシフト」は、ドイツでは「エネルギーヴェンデ(大転換)」と言われ、①省エネ②地域暖房・コージェネレーションシステム③再生可能エネルギーの3本柱からなり、大規模集中型から小規模分散型にシフトするという考え方。又、地域で消費するエネルギー(電気・熱)は、地域の方々に産み出し活用することで、地域に仕事とお金の循環を生み出すことで、地域内再投資が行われ、地域の市民のお金が地域外に出て行くことをいくらかでも少なくし、地域内でまわすことができる。

①で考えると、地域の工務店や建設業者が断熱改修を行えば、まず仕事が生み出されますし、灯油代や電気代にかかる暖房費が少なくなり、その分消費に回すことができる。②で考えると、ある一定の地域でまとめて地域に供給する発電と、その排熱を利用して地域暖房や給湯を行うことができる。岩手県紫波町や山形県最上町の事例がある。③では、市民や事業者が積極的に再生可能エネルギーを導入しやすい制度(補助金や低利子融資など)を取り入れ、そこから削減できたCO<sub>2</sub>を買い取り、市民の啓蒙に役立てることができる。

ぜひ市民発電所等への助成制度を検討していただきたい。地域に若者が残り生活していくには、やはり働く場所が地域にあるということが重要だと思う。地元にある名取高等学校との連携等も良いのではないか。環境政策は、お金にならないと思われがちですがノウハウを集積していけば、他の地域からのモデルにもなり地域の新しい産業になると考える。私の住む岩沼市が、宮城県の先進地域になってほしいと思う。

#### 【市の考え方】

市では、これまでメガソーラの整備や公共施設への太陽光パネルの設置など、市域への再生可能エネルギーの導入を積極的に進めてきました。また、個人住宅への普及拡大を図るために住宅用太陽光発電設置補助も実施しています。計画においては、省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの導入推進に取り組むこととしていますが、地域暖房・コージェネレーションシステムの導入は難しいものと考えています。市の特性や環境に適した再生可能エネルギーの導入について、調査・検討を進めたいと考えています。

○意見の取扱い 「参考」 今後の取組みの参考にさせていただきます。